

次回7月22日は

コラボ読書会

「消費社会の神話と構造」

ジャン・ボードリヤール著



アウトプット勉強会の皆様へ

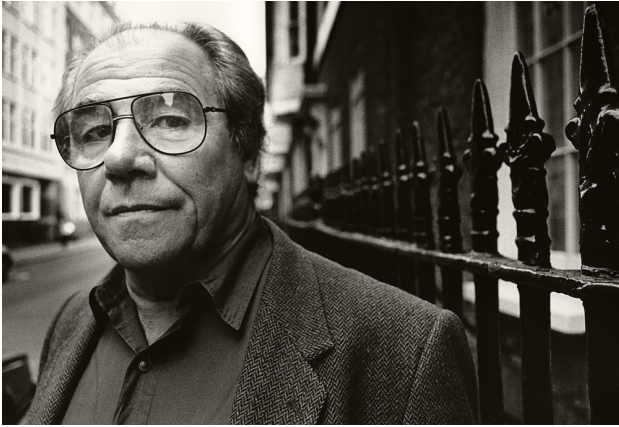
号外

ごあいさつ

猫町倶楽部の哲学、現代思想系分科会の「フィロソフィア名古屋」です。フィロソフィアは、昨年の五月に誕生したばかりの読書会です。会の名前はアウトプット勉強会にゲストでいらつしやったこともある哲学者の國分功一郎さんにつけてもらいました。

哲学はすぐにビジネスや生活の役に立つか？

哲学と聞くと敬遠されたりビジネスの役に立つのかと訝しがる方もいらつしやるでしょう。その一方で、書店では「成功哲学」「企業哲学」という文字をタイトルに見ます。ニーチェを翻訳した本がベストセラーにもなりました。ネットでも哲学者の名言集サイトにもなりました。神の啓示のように哲学者に現代を生きていく上での示唆を求められているのかも知れません。



ジャン・ボードリヤール (Jean Baudrillard、1929年7月27日 - 2007年3月6日) は、フランスの哲学者、思想家である。ポストモダンの代表的な思想家とされる。課題本以外の代表作に『象徴交換と死』『シミュラクルとシミュレーション』等多数



しかし、哲学にとつて大事なのは名言ではなく、そこ（結論）に行き着くための思索の過程なのだと思えます。非常に回り道をする学問です。実際、すぐにビジネスに役立つかどうか、役立ちますよとは自信を持って言えませんが命題を立ててそれに向けて思索をする能力は身につくかもしれません。大風呂敷を広げて言えば、哲学は世界と自分を認識するために自分の可能性を模索する学問であるからです。

選書はボードリヤール

次回の課題本はフランスの哲学、思想家ジャン・ボードリヤールの「消費社会の神話と構造」です。本国の出版から遅れること約十年、高度成長期が終わった一九七九年に我が国で出版されたこの本は、当時の現代思想界のみならず、広告業界や流通業界まで名前が知られることになりました。アウトプット勉強会で「超訳 資

次回のフィロソフィア

今回は8月3日(水)に開催です。課題本は東浩紀著「動物化するポストモダン」です。こちらでは「データベース消費」という概念が展開されます。今回の課題本とも繋がる1冊ですのでこちらも参加いただければ実りも多いかと思えます。詳しくは猫町倶楽部 web にて。



本論」が課題本になりましたので「労働価値」「使用価値」という言葉を覚えておく方もいると思います。彼はそれに対して現代人が重要視する「モノの価値」は「記号」であるとしたのです。

例えば、戦後日本の車市場。最初は移動手段という実用的価値を求めて購入します。社会が裕福になつて選択肢が増えてくると差異を求め始めます。トヨタのキャッチコピーに「つかはクラウン」というものがありました。移動手段としての価値は変わらないのに高級車を買うことがステイタスになるのです。

彼は、「記号消費」です。フランスのシトロエンを買うような人は車ではなく、そこに隠された記号、例えばフランス文化を消費しているのだとしたのです。そういう人は車だけでなくフランス映画やフランス料理にも好きだったりすると付け加えればわかりやすいかも知れません。

この本に影響を受けたかつてのセゾングループの総帥堤清二はブランド顕示ではない「無印良品」を始めました。昨今言われる「物語消費」や「共感型消費」もこの本の考え方を引き継いでいると言えらると思えます。

結論までの道筋は長いですが考えながら読む価値はあると思えます。是非ご参加ください。最後まで読んでいただきありがとうございます。